



解禁設定：3月27日（火）14：00

記者資料配布

平成30年3月19日

大阪経済記者クラブ会員各位
(同時提供＝大阪府政記者会)

大阪商工会議所と国立病院機構大阪医療センターとの連携協定ならびに締結式の開催について

[問合せ] 大阪商工会議所 経済産業部
徳永・根来 電話 06(6944)6484

1. 連携協定締結について

○大阪商工会議所と国立病院機構大阪医療センター（以下、大阪医療センター）は、3月27日（火）13時から、同センターにて、医療現場における課題解決、臨床研究機能強化、産業振興の推進を加速するための連携協定締結式を、尾崎会頭と是恒院長が出席して行う。

○両者は、大阪商工会議所が主催する「次世代医療システム産業化フォーラム（参考1）」を通じて、医師のニーズに基づく医療機器開発を従来より進めてきたが、本提携により、医療機関内の様々な部門におけるあらゆる課題を対象に、解決策となるモノ、サービスの開発を推進する。大阪医療センターの提携協定先は、現時点で大商のみで、大阪商工会議所を通じて同センターの現場ニーズを企業へ提供することが可能となる。

○こうした取り組みは、医療機関において、高度な医療、効率的な医療機関運営につながり、企業にとっては新たなビジネス創出機会となる。

○経済団体と医療機関が連携協定を締結すること、かつ、医療機関側に医師を中心とした連携窓口が設けられることは、全国的にみても稀な取り組みとなる。

2. 締結式の概要（プレスオープン）

日時 平成30年3月27日（火）締結式 13：00～13：30 視察：13:30-14:00

場所 国立病院機構 大阪医療センター緊急災害医療棟2階 視聴覚室
(大阪府中央区法円坂2-1-14) ※次頁のアクセスマップ参照

出席者 大阪商工会議所 会頭 尾崎 裕
専務理事 宮城 勉
大阪医療センター 院長 是恒 之宏
臨床研究センター長 上松 正朗

次第 ○大阪商工会議所会頭挨拶
○大阪医療センター院長挨拶
○連携事業内容説明
○協定書署名、写真撮影
○質疑応答

※締結式終了後、尾崎会頭が大阪医療センターの視察を予定（約30分）（同行取材可）

3. 具体的な連携事業（案）（平成 30 年度）

- (1) 大阪医療センター病院見学会（平成 30 年 6 月頃）
- (2) 次世代医療システム産業化フォーラム in 大阪医療センター（平成 31 年 1 月頃）
- (3) ユーザー評価事業

【随時対応】連携窓口がユーザー評価依頼を受け、病院内で最適な評価者を人選して対応にあたる。

【複数人による評価】医療従事者のカンファレンス（患者に対する医療計画、支援を総合的に話し合う会議）等、様々な業務の医療従事者が集まる機会にあわせて、ユーザー評価会を開催し、複数の医療従事者の評価を一時に受けることができる。

4. 提携により得られる効果

- (1) 大阪商工会議所にとっては、医工連携による産業振興の取り組み強化を図ることができる。
 - ①医師のニーズに基づく医療機器開発のみならず、看護現場における課題解決のためのモノやサービスの開発や、病院のあらゆる部門の施設や設備等、これまで扱えなかった現場ニーズを企業に提供することができる。
 - ②医療機器等の開発に取り組む企業に対し、常時、医療従事者から開発段階の製品等についてのユーザー評価（製品評価）を受ける機会を提供することができる。
- (2) 大阪医療センターにとっては、医療現場の課題解決が図られることで、医療の高度化、効率化を図ることができる。また、地域経済団体の医工連携の取り組みに積極的に協力することで、地域貢献を図ることができる。

【取材についてのお願い】

- 取材の受付は、12：30 から大阪医療センター緊急災害医療棟 2 階視聴覚室前で行います。受付にて名刺の提供もしくは受付簿への記入をお願いします。
- 取材に際しては、必ず自社腕章を見えやすいところに着用してください。腕章などの佩用がない場合、取材いただけないことがございます。
- 報道関係者の方は、受付順に会場にご入場いただきます（1 社につき 1 カメラ）。
- 取材にあたっては、締結式および大阪医療センター視察の妨げにならないよう、職員の指示、誘導に従ってください。なお、センター視察時は許可のない場所での撮影はお断りします。

【添付資料】

- 資料 1 次世代医療システム産業化フォーラム概要
- 資料 2 国立病院機構 大阪医療センター概要

以 上

【アクセスマップ】

●周辺地図



最寄り駅：大阪市営地下鉄 谷町四丁目駅（11）出口

●敷地案内図



「次世代医療システム産業化フォーラム」概要

1. 事業概要

- 他地域に先駆け 2003 年より、医療機器の開発・事業化がスムーズに進む環境（＝プラットフォーム）の整備を通して、医療現場のニーズ収集から医工連携マッチング、事業性評価、コンセプト立案、試作、非臨床試験、臨床試験、薬事申請、販路開拓まで一貫した支援を実施。
- 年 7 回 開催される本フォーラムの「医工連携マッチング例会」は全国最大規模の医工連携事業。医療機関等との連携を求める多種多様の規模、業種の企業が参加。
- 加えて、「医療機器事業化支援サービス」として、医療機器の開発、製品化に至る事業化プロセスにおける様々な課題を解決する一貫支援（医療機器相談）を実施。
- その他、医療機器関連のタイムリー、かつ、実践的な情報提供を行う各種セミナーや、医療機器開発に係る人材育成事業、医療機器ビジネスの海外展開支援等も実施。

2. 主催・共催・後援・協力（2017 年度実績）

主催：大阪商工会議所

共催：関西広域連合、大阪府、日本貿易振興機構(JETRO)大阪本部、京都商工会議所、東大阪商工会議所、八尾商工会議所、堺商工会議所、尼崎商工会議所、神戸商工会議所、豊中商工会議所、北大阪商工会議所、茨木商工会議所、大東商工会議所、松原商工会議所、守口門真商工会議所、吹田商工会議所、西宮商工会議所、姫路商工会議所

後援：近畿経済産業局、北海道経済産業局、東北経済産業局、関東経済産業局、中部経済産業局、中国経済産業局、四国経済産業局、九州経済産業局、内閣府沖縄総合事務局、近畿バイオインダストリー振興会議、(公財) 京都高度技術研究所、(一社) 神戸市機械金属工業会、(公財) 千里ライフサイエンス振興財団、(公財) 大阪産業振興機構、(公財) 先端医療振興財団、(地独) 大阪産業技術研究所、

協力：(一社) 大阪医療機器協会、(公社) 大阪府看護協会、(一社) 大阪府言語聴覚士会、(一社) 大阪府作業療法士会、(公社) 大阪府理学療法士会、(一社) 大阪府臨床工学技士会、(一社) 京都府臨床工学技士会、(一社) 兵庫県臨床工学技士会

3. 座長

- 独立行政法人 国立病院機構 理事長 楠岡 英雄氏 (座長代表)
- 大阪大学 国際医工情報センター 特任教授 三宅 淳氏
- 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター 客員研究員 妙中 義之氏
- 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 再生組織構築研究部門 生体材料学分野 教授 田畑 泰彦氏
- 東京女子医科大学 先端生命医科学研究所 顧問 高倉 公朋氏
- 東北大学大学院医工学研究科健康維持増進医工学分野 教授 永富 良一氏
- 九州大学 大学院医学研究院 先端医療医学部門 先端医療医学講座 教授 橋爪 誠氏

4. 2017 年度参加企業数

企業数 : 145 社

地域割合 : 関西 75.7% 関東 14.6% その他 9.7%

5. 実績 (2003~2017 年度まで累計)

総発表案件数 : 693 件

マッチング件数 : 669 件 (96.5%)

共同開発案件数 : 248 件 (35.8%)

事業化案件数 : 32 件 (4.6%)

※カッコ内は対発表件数割合

延べ参加企業数 : 830 社

延べ提案機関数 : 129 機関 (全国の医療機関、大学・研究機関等)



成果／支援案件～事業化事例～

■ヤマハ発動機株式会社

案件名称:「細胞(塊)ピッキング&イメージングシステム『セルハンドラー』」

案件概要:新薬開発(創薬)や抗がん剤の効果を検査する際など、薬効を評価する試験工程において、手動では困難であった速度と精度で目的の細胞(塊)を選択、高密度培養プレートへ、一つずつ移動するとともに撮像、画像情報を取得・データ化する。

連携先:旭川医科大学

これまでの経緯:2011年に旭川医科大学 内科学講座
消化器・血液腫瘍制御内科学分野
講師 水上 裕輔氏が発表したニーズを基に
開発、事業化。2017年8月に第1号機を
福島県立医科大学に納入。

事業化年度:2017年



大阪商工会議所

Osaka Chamber of Commerce and Industry



成果／支援案件～事業化事例～

■株式会社樋原製作所

案件名称:「車椅子後方連結型点滴ポールスタンドキャッチャー」

案件概要:シリンジポンプや輸液ポンプを取付けた点滴スタンドの転倒防止のために、車椅子の後方に簡単に強固に連結できる、「点滴ポールキャッチャー」。上下2箇所に取り付けられたクランプはワンタッチで開閉でき、点滴ポールの外径に合わせてクランプの強さを調整できる

連携先:国立循環器病研究センター、大阪北野病院

これまでの経緯:2014年に独立行政法人 国立循環器病
研究センター 看護師長 福島 佳織氏が
発表したニーズを基に開発、事業化。

事業化年度:2017年



大阪商工会議所

Osaka Chamber of Commerce and Industry

■安井株式会社

案件名称:「LED照明付プラスチック開創器」

案件概要:先端の鉤部分が透明なプラスチックでできた開創器。LED照明がついているため、術野を明るくすることが可能。2016年MEDICAに出展後、56社から引き合いがあった。

連携先:琉球大学医学部附属病院

これまでの経緯:2013年に慶応義塾大学 医学部 形成外科学教室講師 清水 雄介氏が発表したニーズを基に開発、事業化。

事業化年度:2016年



大阪商工会議所
Osaka Chamber of Commerce and Industry

■株式会社クロスメディカル

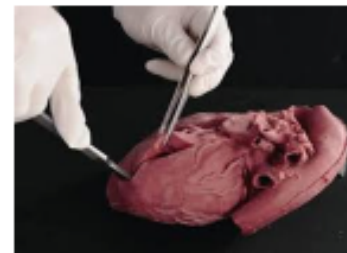
案件名称:「心臓シュミレーター」

案件概要:患者個体ごとのCTスキャンデータを用いたフル・オーダーメイド精密超軟質心臓シュミレーター。術前の緻密な検討や若手医師の教育訓練用として使用される。

連携先:国立循環器病研究センター

これまでの経緯:2009年例会で国立循環器病研究センター 小児循環器診療部 部長 白石 公氏が発表したニーズをもとに開発、事業化。

事業化年度:2011年



大阪商工会議所
Osaka Chamber of Commerce and Industry

「国立病院機構および同大阪医療センター」概要

I. 独立行政法人 国立病院機構について

- 全国に 142 の医療施設の他、看護学校、助産学校等の附属施設を有する独立行政法人（本部は東京都目黒区東が丘に所在）。
- 医療の提供、臨床研究の推進、医療従事者の養成という 3 つの使命を担い、急性期から慢性期までの診療を約 5 万床の病床と約 6 万人の職員で行う日本有数の病院ネットワーク。
- 平成 28 年 4 月より、国立病院機構 大阪医療センター 前院長を務めた楠岡 英雄氏が機構の理事長を務める。

II. 国立病院機構 大阪医療センターについて

■概要

所在地： 大阪府中央区法円坂 2 丁目 1 番 1 4 号

院長： 是恒 之宏

病床数： 692 床

職員数： 1,354 人（うち、医師 256 名）

診療科数： 39

※上記数字は平成 27 年度実績

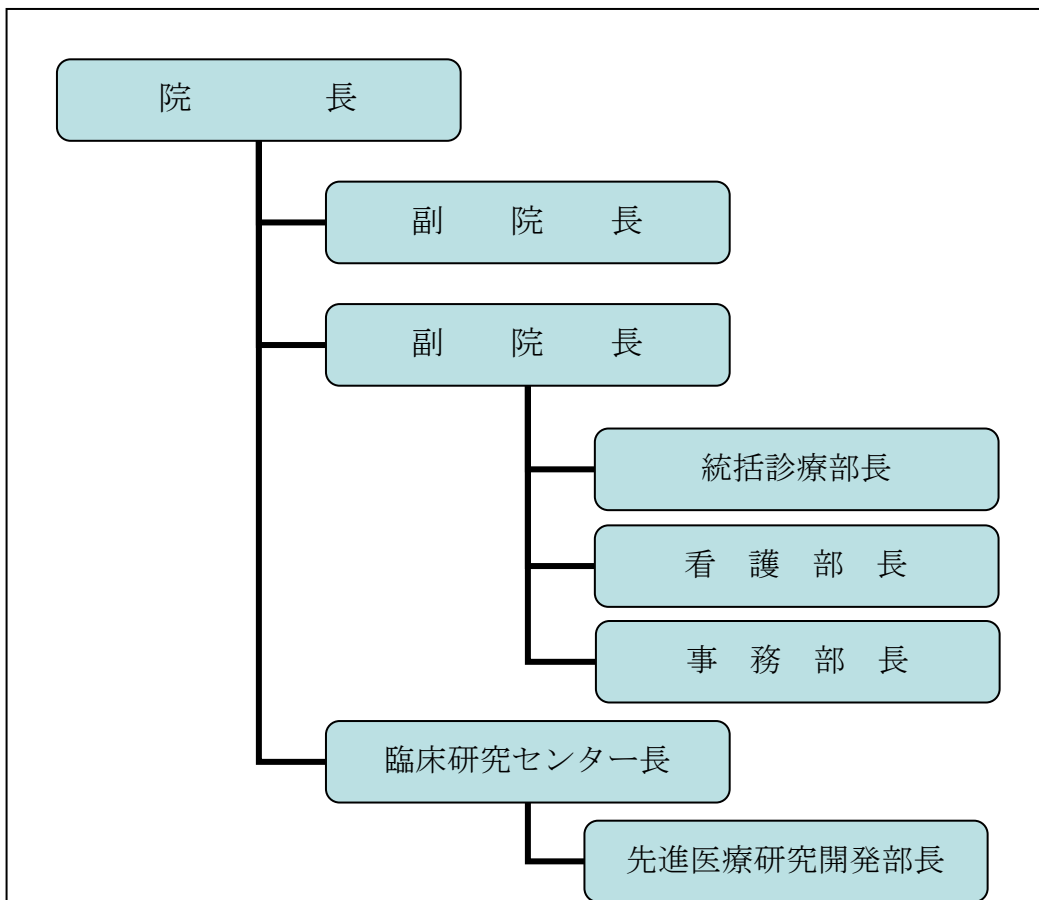
■特色

- ・ 三大疾患である、がん、心臓病、脳卒中をはじめとして、広い領域の疾患を取り扱っており、高度で総合的な医療を提供する。
- ・ 医師の臨床研修病院の指定を受け、数多くの大学医学部、医科大学、薬科大学、看護系大学等の医療職養成校から学生を受け入れ、実習の場を提供する。
- ・ 臨床研究センターを有し、新薬や新しい医療機器の開発のために欠かすことのできないプロセスである治験に積極的に取り組む。

■沿革

昭和 20 年 12 月	大阪第一陸軍病院から厚生省に移管され、国立大阪病院として発足
平成 16 年 4 月	独立行政法人国立病院機構設立により独立行政法人国立病院機構大阪医療センターとして発足
平成 20 年 11 月	地域医療支援病院に承認される
平成 22 年 4 月	厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院として指定される

■組織・体制



■医工連携実績

過去に次世代医療システム産業化フォーラムにおいて下記 5 案件を発表。

- ・脳血管シュミレータの開発 【事業化】
- ・神経幹細胞バンク
- ・脳神経外科手術器具・医療材料改良プロジェクト 【共同研究・開発中】
- ・めまい診療用モデル作成の提案
- ・「ヒト ES/iPS 細胞の実用化を支援する無フィーダー培養技術開発」
【共同研究・開発中】

以 上